

令和3年度 くらがり溪谷レクリエーション施設事業報告書

公の施設名称	岡崎市くらがり溪谷コテージ 岡崎市くらがり溪谷キャンプ場 岡崎市くらがり溪谷デイキャンプ場
施設の設置目的、役割	くらがり溪谷の豊かな自然との触れ合いを通じて市民の心身の健全な発達を促進する施設
施設の所在地	岡崎市石原町字牧原日影 6 番地 1 岡崎市石原町字闇苅 69 番地 1
施設規模	敷地面積：26,160.00 m ² 建物面積：1,090.67 m ²
指定管理者	名 称：一般財団法人 碧水会 所在地：岡崎市石原町字牧原日影 2 番地 2 代表者：理事長 加山 茂
指定期間	5 年間（平成 28 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日）

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

◇物品貸出

貸出期間：令和 3 年 4 月～5 月、10 月～令和 4 年 1 月

デイキャンプ場、キャンプ場利用者向けの物品貸出を実施

手ぶらバーベキュー利用者用として、鉄板、網、木炭、トング等をまとめた基本セットを用意した。

◇くらがり溪谷紅葉まつり

11 月 13 日（土）～12 月 5 日（日） 来場者数 約 19,000 人

期間中、溪谷内を巡るスタンプラリーを実施した。

◇定例自然観察会 参加者数 約 270 人

4 月 11 日（日）・5 月 9 日（日）・6 月 13 日（日）・7 月 11 日（日）・8 月 8 日（日）
9 月 12 日（日）・10 月 10 日（日）・11 月 14 日（日）・12 月 12 日（日）・
3 月 13 日（日）

(2) 事業実施に対する自己評価

額田地区観光地化推進協議会に参画し、スタンプラリーを始め、商工会や各種団体と連携して誘客促進に取り組んだ。

今後も、更なる誘客が図れるような事業を計画（展開）していく。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

区分		元年度		2年度		3年度		
		回	人	回	人	回	人	
コテージ	ささゆり（7人用）	80	553	63	405	16	101	
	まんさく（5人用）	72	342	65	277	17	77	
	もみじ（5人用）	71	309	59	260	16	74	
	計	223	1,204	187	942	49	252	
キャンプ	花の木広場	101	311	117	365	65	137	
	花の木広場（テント）	87	337	35	119	12	38	
	バンガロー（6人用）	0	0	0	0	0	0	
	バンガロー（10人用）	0	0	0	0	0	0	
	山の家（梅）	20	161	8	80	4	26	
	計	208	809	160	564	81	201	
デイキャンプ	猿神	6	31	0	0	0	0	
	花の木広場	62	361	0	0	0	0	
	バンガロー村	102	788	8	74	6	57	
	追分	屋根あり	1,252	8,881	909	5249	175	924
		屋根なし	808	3,900	633	2477	119	422
	計	2230	13,961	1550	7800	300	1403	
その他	シャワー施設	133	133	81	81	21	21	
	避難小屋（花の木広場）	0	0	0	0	0	0	
	計	133	133	81	81	21	21	
合計		2,794	16,107	1978	9387	451	1877	

(2) 利用状況に対する自己評価

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、夏の行楽シーズンに施設を閉鎖したことにより通年の利用回数、利用者数ともに大幅減となった。

老朽化している施設が多数あることから、安全性や利便性は当然のこと、衛生面でも気持ちよく利用してもらえるよう努める。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額 (円)
収 入	指定管理料収入	施設管理運営	4,201,000
	利用料金収入	レクリエーション施設利用料	2,254,200
	事業収入	物品貸出	235,050
	その他収入	休業補償、利息等	10,496,114
収入 計			17,186,364
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、消耗印刷費、修繕費、清掃等委託料、保険料等	15,073,891
	(うち修繕費)	※精算項目	(805,728)
	事業費	事業に係る経費	181,620
	その他	本部経費、租税公課等	1,930,853
支出 計			17,186,364
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

新型コロナウイルス感染症対策として実施した施設閉鎖により、利用料金収入や物品レンタル等による事業収入が大幅減となった。

経費の削減は常に意識しているが、施設の老朽化による経常的修繕費、衛生的清掃事業費など施設の安全性と衛生管理のための必要不可欠な経費については削減が困難であるため、それを維持しつつ健全な運営に努める。

4 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

職員はもとより、夏季における短期従業員も親切丁寧な接客を常に心がけるよう指導教育している。また市と連絡を密にすることにより、アドバイスや指導を仰ぐようにも心がけている。

各施設の管理には細心の注意をしながら、利用者に不快や不満が生じないよう安全確保、衛生管理を優先することに努めている。

また近隣の店舗との連携を忘れず、施設利用促進に繋がるよう努める。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

常に利用者（来場者）とコミュニケーションをとるようにし、ニーズを把握するよう心がけている。また他のキャンプ場やアミューズメント施設等の情報を収集し、施設や案内標識の設置方法、職員を含むスタッフの接客（対応）能力の向上を図る等、検討を行うよう努める。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

今年度、特に苦情等は無かったが、それらについてその内容の事実確認を含む情報収集並びに分析を即座に行い、迅速に対応するよう日ごろから心がけている。よって、苦情等を受けたことは市とも連絡・調整しながら遅滞なく対応できる体制を整えている。